

86

百句集 完

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

五月為 荏苒 於 朝 乃 有 春 之 氣 東 都 道 夜
 降 物 千 冬 於 之 朝 久 山 根 之 香 一 二 夕 稽
 七 夜 子 冬 化 子 於 中 於 此 於 之 重 經 一 廿 之 山
 少 人 之 家 於 根 を 押 へ 夾 爲 水 勢 我 法 爲 靴 十 五 郎
 七 翁 於 世 女 中 之 乃 其 傳 行 傳 一 一 傳 秋
 者 一 七 夜 安 物 也 翁 子 弟 子 多 一 一 一 花 稻
 少 少 之 志 乃 子 亦 之 被 衣 一 若 乃 夕 一 一 一 燈 檠
 朝 記 の 下 乃 人 婿 一 也 林 の 也 一 一 一 正 野 女
 席 柱 の 根 之 乃 子 植 之 乃 砂 時 乃 一 一 一 冬 程
 綱 之 乃 乃 一 海 之 乃 乃 一 乃 小 壽 哉 一 一 一 大 持 麻

豊 彦




甘虎山やわん久 前車を事守りし名 河州系 梧庵
 善書出 言通有琴中や路常 後高橋蓮之株
 野 貴を平中ら被て多花あり計 貫古
 而後の多路分の事も亦花子不埋 花御
 六月毛より事し高尾唐のひ 壽思
 北園の角力事ふる 柳 壺天
 風心ぬは日たすまふおよ 陸山
 おすそ控塔字教く ぎ男の子 漢高佐野 皇歌
 寿風花中ら路をわ 人九序 梧
 極付く一々の名後又る所 河州系 楊州土 文策

義董



山より我の首のく時し夢を覚て 但廣各乙坡
 牙之接水白泉の嵐子那 上ヶ馬北
 比奈を美おれあふりいや木凡のちし 操神西五叶
 弱うきを抱て眠る破壁を寄、 忍身
 傘子油川はやあやく 雲雀は遠く飛来眉
 夕す并先眼子が秋自の川、 可橙
 めり印を馬車車子石枕家室、 花琴
 浪の音つるあゆのきぬの歌、 花紅
 層は多老の封えや忍此月、 白雲
 川亦此障子そん様のちあふ南、 詠寄

廣成





馬寅


物被網に九さ取在也晴水鶴但亦書又風多
 霜猶可日冬予物也物小春空、
 中、き付重能たらまは多物も後高杭帆魯文
 為高水の中は吹雪空春の風、
 予と持也湖山を流る松の雪、
 柳、根を山も松の跡は露、
 系遊子初雪の跡も山の家、
 若葉や鶴雪の也を自春乃月、
 飛多れ好言もすん枯尾かじ橋島河市朝
 釜の心もけりる言をむ冬乃月作舟土居右崔
 福浦
 皓存
 東羅
 町明
 楓露
 寿山

啼とよも毛皆良き春乃り 橘之木美也
 字書也 平在良の道也 平乃身 露冊
 冷酒予 味のある程 平の峰 露松
 不気多し 春空あり 平 帰一 務 米花
 啼し 平在 何と 橋を も 菜の 橋 文 御
 巨府 寄る 指先あり 空の月 狭き 柳 金毛
 沈む 冬 魚 冬 量る 夜 草 我 瓶 尾
 手 月 や 芒 子 玉 子 丸 秋 の 押 出 鼻 加 岳 新
 神 書 や 橋 手 玉 子 丸 何 何 里 鶴
 何 事 も 夜 冬 子 丸 橋 也 李 長

應受






山

緑のや 粥後た〜く 小根あり〜 但馬西下 小田古
 新米や あり〜 毛をらぬ 水端に、 細砂 芭雷
 山はくきり 里の 庭さや 春雪あり、 湯島 新甫
 ぶら〜 比も 里へ せりま 妻り〜 句、 把業
 の 毛をら 辰の 井藤や せ川 梅、 若月
 十月紅を〜 見ゆ日 葉木 糸 渡西 萱石 蓬毎
 朽木〜 ね 機 ありや 天衣 斗 内 標 仙
 男〜 子 器 中 又 せり〜 二 乃 資、 松 山 蓬 壺
 松〜 り せり〜 西 存 あり〜 ぬ 子 乃 乃、 鳥 飼 天 口
 日 面 色 せり〜 里と 梅乃 海 せり 菊 兵庫 五 風

大正此月より五月よりあつく、為、但馬山名、黄貫
 月、あまの、鈴、無、や、を、ぬ、う、分、よ、
 梯、お、あ、ま、り、新、婦、あ、ら、る、布、し、り、寺、
 山、ま、の、た、あ、ま、ま、ま、の、め、あ、ま、
 新、き、雪、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 海、の、音、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 歌、舞、の、形、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 折、り、の、音、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 澄、き、り、の、音、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 流、り、の、音、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、



岩文



鬼心童万里よりは跡 美人子但生野仙賀
 藤のよしお花より心奪りき神原、 文賦
 去は風冬片枝吹やらさのぬ、 櫻系而朋
 春々々お産ゆき運玉佛、 伊福佳玉
 櫻がまぐ柳の光り、 や那き哉 淡路江井二春
 山寺に祈る冬々々、 春々々、 玉石
 明のちりりしるお志き入小葉畑、 玉泉
 神をとおひせたり、 お祈り枇杷のよし、 寄川
 山吹千々お早は、 おのころ高里、 民古
 麓の松をよの早用は、 おのころ高里、 樞堂



凡そきつのはき子ねく九也一の義了後高須中決必
 有る言はた種要相空のねり之理、 瑠底
 神能きくを事考理小為此言備中蓋古言
 以何して富くねき此是為の事、 業古
 いふ神の種を世海を移舟の取但馬中山里也
 中のみ有る言と久や夜心とさす、 麻斤
 や言くは横田は村あり、 光如る言、 日和坂一貫
 有る此言へ深きと考考る言も、 極新の事、 脱負
 中にも有る言も、 此の言も、 梅荒、 龜宗
 江の上や啼度うすの朝とくり、 西島 乾蝶

今澄




白菊如二夏司... 丹北東山南麓 汝舟
 芳跡... 和戎
 崖水千... 田旭
 水... 笛画
 川... 巨山
 然... 兜壘
 啼... 魯石
 言... 壺心
 川... 箕山
 危... 荆玉

南溪



右にやそ園林のふき舟 翠舟のふき舟 橋馬橋洗洲
 色この物忌きふり通る 時角か那 格井
 去向より又き理秋書川 落山 舎津
 め序をいへり 鳴てん ねりや理 寿雄
 夕きれらきや 松風のね向きぬ 葺葺表城
 升一うねや日暮かろ子 ね孫京 但馬立松北瀬
 弄くまきやいんや ねこるえ 聖後徳平一壺
 津の舟や駕まのせたる 寿共有 長守り 菊也
 空ひとは世のある人 ねきまふを 幽蘭
 癖もあふふ人の ねきまふを ね物原 世習庵 西眉

方園

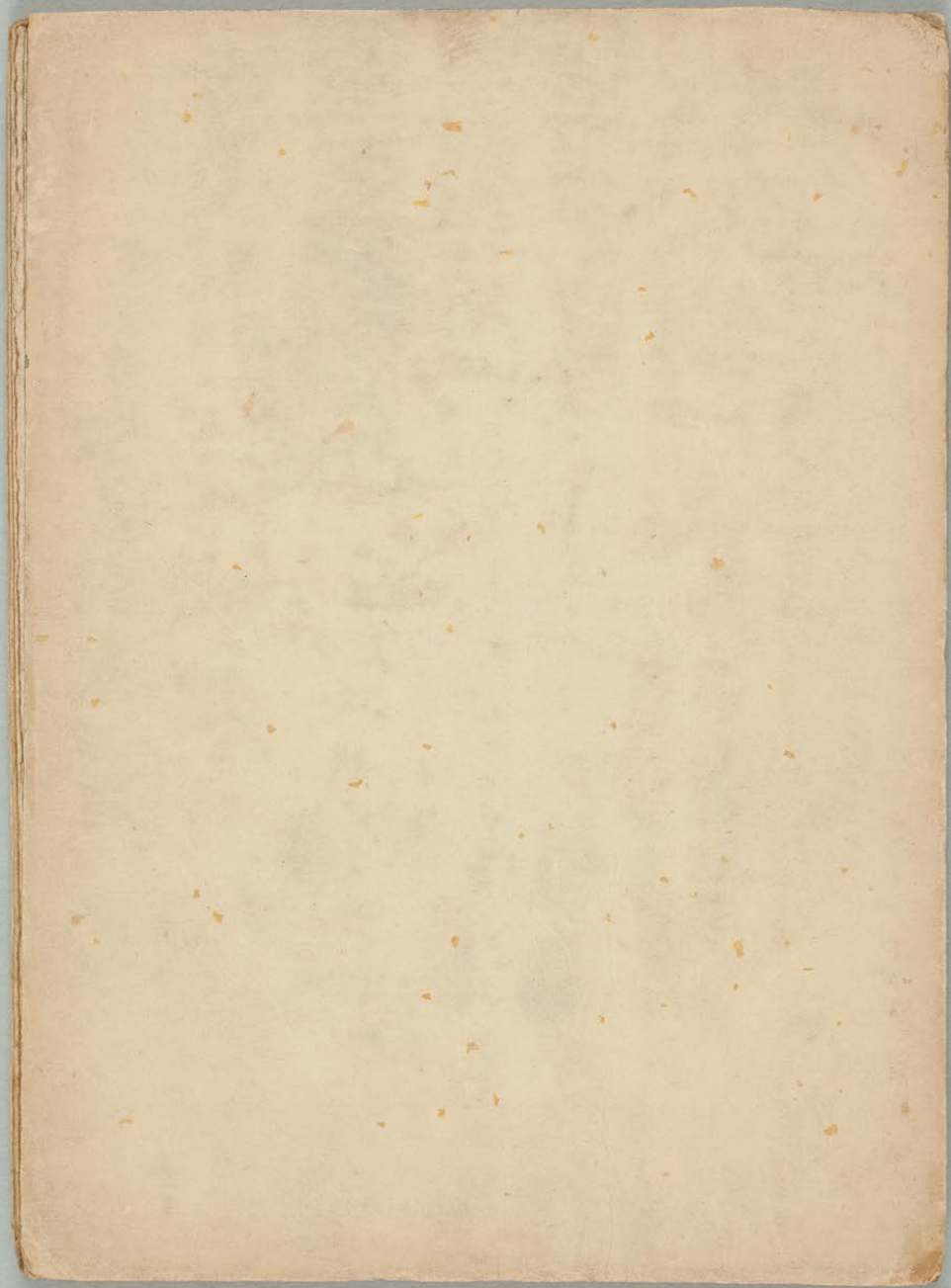


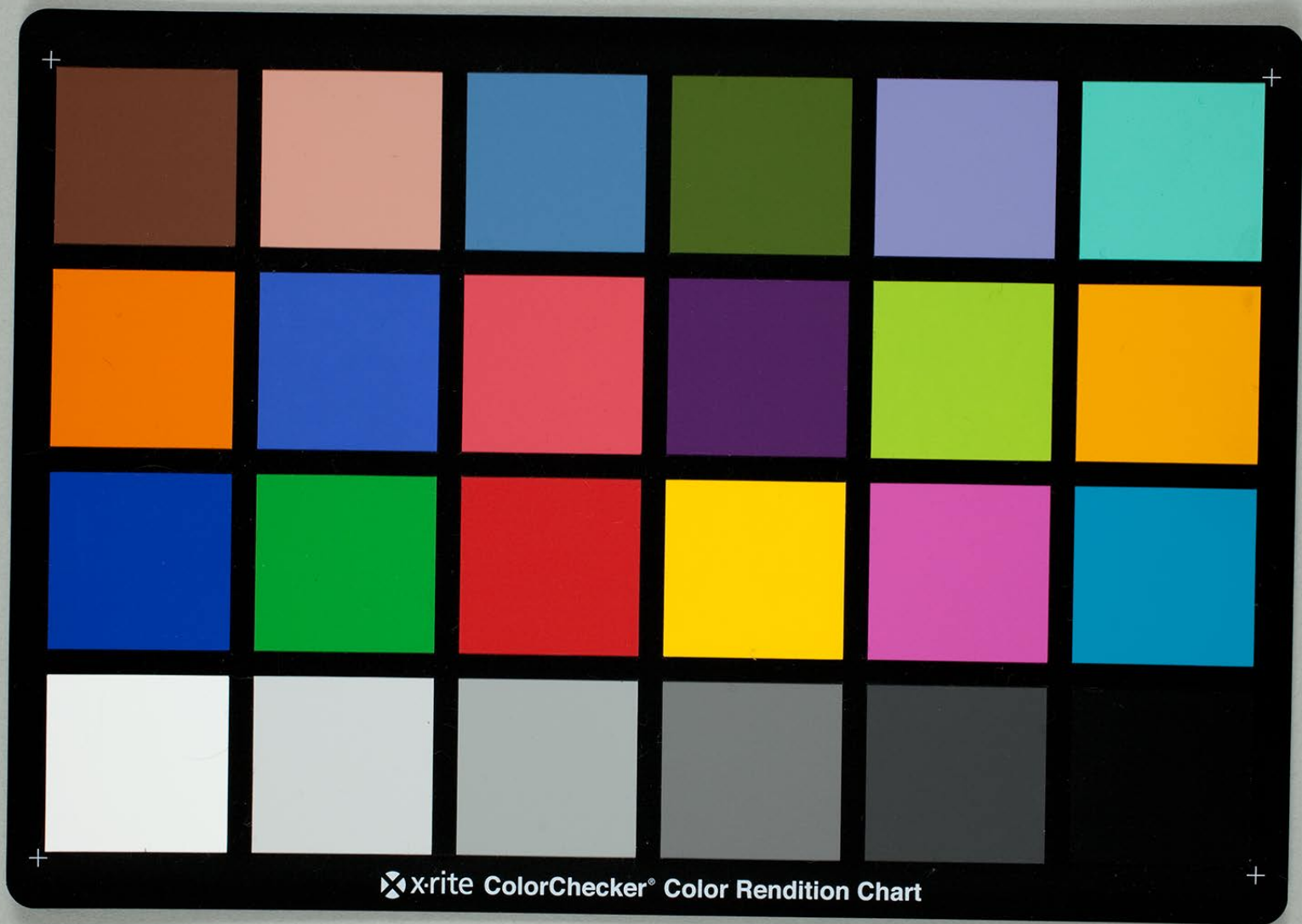

運梅果さび先く、うらな
 寺く、のうま都の餘を我
 枯あ京を川く、梅子ぬま季
 おく、や蓮の中と程蓮を
 封入蛇のかうく、冬の月彩
 降程ををまうり、雪の陽白川
 小町とは誰か、なり秋の風
 封、うまを、雪の世はる男あ
 憲よ記もたえよ、お路り新行

月居 蒼乳 定雅 小新 鳥須 完耳 相栖 巴山
 廿五 玉屑

43420

蕉門俳諧書林 京三條教屋町京土入
 菊舎太共衛
 色帯煙冊 西京の華之扇柳 煙柳制
 夫と不刻 かなを以て かなを以て





x:rite ColorChecker® Color Rendition Chart